

## WEB併用も検討へ「アンケート調査」会社決定

10月に行う予定の恒例のファンアンケート調査の調査請負会社を選定していたが、(株)インテージに決定し、直ちに設問内容の検討に入る事が報告された。インテ

ジからは、これからユーザーになる可能性の人たちの考えや、業界として改善すべきポイントネットワーク部等を解明するために、ノンユーザー及び戻ってこない完全なスリープユーザーも対象にしたWEBアンケート調査を、従来の対面調査に併用したらどうかとの提案があった。

これとは別に、他団体からファンアンケート調査と並行してWEBによる共同アンケート調査の話が進められており、当該団体と調整中であることが報告された。

ファン雑誌との情報交換会を8月10日に本部会議室で行うことが報告された。対象は2010年ごろセキュリティ対策委員会に協力して「パチンコ攻略法詐欺撲滅キャンペーン」を展開したファン

雑誌連絡会の中の5社(笠倉出版社、竹書房、辰巳出版、プラントピア、ガイドワークス)。これとは別にWEB関係との情報交換会も追って開いていく。

情報交換会の目的は、メディアを通じてファンへの日遊協及び業界の発信力を強化すること。そのためにファンと一番近いメディアとしてファン雑誌、WEBとの関係づくりを行う。

### 広範な就業人口調査

業界データベースの一環として、パチンコ産業界の就業人口調査が

計画に上がった。ホール、メーカー、販社、設備機器、景品等の直接関係する企業だけではなく、広告、警備、建設、コンサルタント業ほかの周辺の業種も含めての、「パチンコ産業に関わって生計を立てているすべての業種」を対象にした就業人口を出してみようという試みで、業種の線引き等のため継続審議となった。

### 人材育成委員会

7月8日  
本部会議室  
出席委員等8人

### 「3回連続参加」で募集

#### 9月から「女性活躍企画」

女性の活躍推進企画について協議した。参加する女性社員は1社から1人、計30人程度にし、フォーラムは9月、11月、来年2月の3回開く。3回連続して参加できることを前提に募集する。メインテーマを「女性が輝く業界を目指して」とし、サブテーマを①理想のキャリア形成とは? ②理想のワークライフバランスとは? —の2つで進めることを確認した。フォーラムの内容は、講演、グループディスカッション、女性先輩社員による経験談、懇親会等で、最



女性の活躍推進企画を検討した人材育成委員会

終回のフォーラムでプレゼンテーションを行う。3回の各フォーラムでの大まかなタイムスケジュールを固めた。

### 流通勉強会

### 行政への要望検討

第12回流通勉強会が7月23日、本部会議室で開かれ、東京都 関東支部の景品卸会社代表4人、庄司孝輝会長、福井章担当副会長、堀内文隆専務理事、篠原弘志常務理事、茂木欣人風営法PTリーダーらが出席した。景品問題で行政への要望等を協議した。



ファンアンケート調査などを協議した広報調査委員会

## 依存問題PT兼WG

7月3日  
本部会議室  
出席委員7人

### ネットとDVDの両方で依存ガイドラインの研修テキスト

遊技産業活性化委員会の依存（のめり込み）問題WG（ワーキンググループ）を兼ねているため、全日遊連、日工組、日電協、全商協、回胴遊商からもオブザーバーとして10人が参加した。

さる3月にパチンコ・パチスロ産業21世紀会で承認された「パチ



他団体からのオブザーバーも参加して、ガイドライン研修テキストの制作等話し合った依存問題PT

ンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」をホールに浸透させるために、従業員向け研修テキストの作成について協議した。制作形式は、例えばホームページ等から個々のパソコンにダウンロード可能な方式とDVD方式の2本立てとすることを決めた。

#### 再現映像なども活用へ

内容は、安藤博文PTリーダーによるガイドラインの概要解説、西村直之リカバリーサポーター・ネットワーク（RSN）代表によるRSNの紹介、ホール現場でのお客様対応などで、演技の再現映像を効果的に活用する方針だ。

また、パチンコの楽しさや社会貢献をバックボーンに据えて、研修を受けた従業員が依存問題の負のイメージで悩まないように留意することが挙げられた。そのため「シナリオ」づくりを急ぐことを確認した。

全商協が新年度の社会貢献事業のひとつとして、RSNの電話相

談窓口業務のサポートを行うことで、そのための「支援室」の設置など対応の進捗状況が報告された。

### 遊技機委員会

7月21日  
本部会議室  
出席委員等20人

#### 「旧機」などで情報共有「定量制」で全日遊連修正案

新基準に該当しない遊技機の取り扱いについての全日遊連の方針を巡って、5団体（日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商）が7月15日に打ち合わせた内容が報告され、委員会として共有した。5団体としては、全日遊連の方針にできる限り沿い、新基準に該当しない遊技機について全日遊連が設定した2段階（平成28年12月現在、29年12月現在）の設置比率目標値を支援する。認定申請に関しては、全日遊連は原則として行わないとしながら、営業上の理由から一部の例外措置を認めているが、日工組、日電協は新基準に該当しない遊技機の認定申請は一切行わないとしており、5団体として日工組、日電協に足並みをそろえている。

遊技くぎと一般入賞口の問題について、本部主催で7月6日に催

された健全化勉強会の内容等が報告され、ホールとしてこうあるべきではないかという方向性を共有した。

依存問題対策の1つに定量制の活用が挙げられているところから、4月の遊技産業活性化委員会に「定量制営業ガイドライン」の日遊協案が提出されていたが、これに対する全日遊連の修正案が出されたことが報告された。両者には大きな開きがあり、今後全日遊連側と意見交換していくことを申し合わせた。

#### 「ニコ超」の構成など素案

来春に予定される「ニコニコ超会議2016」に出展する日遊協ブースについて、ロゴ、会場の構成イベントなどの素案が提出された。「ニコニコ超会議」による出展の意図確認は秋ごろになる模様だが、遊技機委員会としては既に次回の出展を決めている。さる4月25、26日の「ニコニコ超会議2015」での日遊協ブース入場者は2日間9147人で、当初目標の5000人を倍近く上回る盛況ぶりだった。遊技機番号管理方法の検討に関して、今後の審議の方向性を確認した。